

## 「ひょうご教育創造プラン(兵庫県教育基本計画)」(H21~H25)の検証

重点目標	施策	主要施策の状況	施策の成果等を示すデータ等（プランに掲げる「具体的な目標」など）			成果と課題及び計画期間中の状況変化等
① 自主的に生きる力を培い、創造性を伸ばす教育の推進	「確かな学力」の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひょうご学力向上プロジェクト（全国調査の分析、学力向上方策の検討）</li> <li>スーパーティーチャーの派遣</li> <li>「ことばの力」の育成</li> <li>「学習タイム」の推進</li> <li>インスパイア・ハイスクール～魅力あるひょうごの高校づくり～</li> <li>兵庫型教科担任制の推進</li> </ul>	○全国学力・学習状況調査結果（平均正答率） 〔全国平均以上〕 H20→H25比較	小国A	県66.1/国65.6 → 県63.3/国62.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査結果における学力の定着状況は全国と同程度であるが、「活用する力（B問題）」に課題があり国語をはじめ全ての教科での「ことばの力」の充実が必要</li> <li>週4回の学習タイム実施率は24年度全校実施となったが、学習意欲や学習習慣の確立が必要</li> <li>兵庫型教科担任制のH24全県実施により、学力向上及び小中の円滑な接続に向けた体制が整備</li> <li>国の「小中連携、一貫教育の推進(H24.7中教審部会)」の検討状況を踏まえた小中双方向からの連携が必要</li> </ul>
			○家で計画を立てて勉強をしていますか	小	県50.7/国52.2 → 県56.0/国58.9	
			○学習タイムの週4回実施	小	69.9% (H20) → 100% (H24)	
			○教科担任制の全県展開 〔全県実施745校〕		113校 (H21) → 745校 (H25)	
	「豊かな心」の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>兵庫版道徳教育副読本の作成</li> <li>道徳教育推進事業（道徳の授業公開、教員研修）</li> </ul>	○学校のきまり・規則を守っている	小	85.5% (H20) → 90.3% (H25)	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の規範意識は向上している一方、自尊感情や対人的な道徳的行為に課題</li> <li>道徳教育副読本の活用促進と道徳的実践の場となる体験活動との両輪による道徳性の育成が必要</li> </ul>
			○自分にはよいところがあると思いますか	小	73.1% (H19) → 75.9% (H25)	
			○将来の夢や目標を持っていますか	小	84.3% (H20) → 87.6% (H25)	
			○若者が希望をもてる社会だと思う人の割合 (県民意識調査)		5.3% (H20) → 5.2% (H24)	
			○人が困っている時は進んで助ける	小	76.7% (H19) → 79.8% (H22)	
			○物事を最後までやりとげて嬉しかったことがある	小	93.6% (H20) → 93.9% (H25)	
			○難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している	小	70.6% (H20) → 72.7% (H25)	
			○道徳の授業公開の状況	小	98.4% (H20) → 100% (H24)	
	「健やかな体」	<ul style="list-style-type: none"> <li>「運動プログラム2009」の実践</li> <li>小学校教員の体育実技指導力向上研修</li> </ul>	○新体力テストで全国平均以上の項目の割合 〔小・中：80%以上、高：90%以上〕	小	56.3% (H20) → 71.9% (H24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>小・中・高校生の体力は向上しているが、体力水準の高かった昭和60年頃と比較してなお低い状況</li> <li>幼児期からの一層の体力向上、家庭・地域と連携した運動習慣の定着が必要</li> </ul>
			○朝食を毎日食べる人の割合	小	94.6% (H20) → 95.6% (H25)	
		○食に関する年間指導計画作成		80.2% (H20) → 95.6% (H24)		
		○学校給食の県産品使用割合〔H27：35%〕		27.7% (H21) → 29.3% (H24)		
	高等学校教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>「兵庫県高等学校第二次実施計画」の推進</li> <li>複数志願選抜の導入推進</li> <li>新通学区域の導入</li> </ul>	○高校生活充実度（「充実」「大変充実している」生徒の割合）	複数志願	86.4% (入学直後) → 91.4% (卒業前)	<ul style="list-style-type: none"> <li>第二次実施計画に基づく学科改編や新通学区域の導入決定等高校教育改革が進展</li> <li>平成27年度入学者選抜から導入する新通学区域及び複数志願選抜制度等の県民への丁寧な周知、各校の更なる魅力・特色づくりとその情報発信が課題</li> <li>第二次実施計画の満了(H25)を控え、国の高校教育の在り方検討(H24～)の動向等を踏まえた次期計画の策定が必要</li> </ul>
				特色選抜	89.0% (入学直後) → 90.3% (卒業前)	
			○第二次実施計画に基づく再編整備	単位制	26校 (H20) → 29校 (H24)	
			複数志願	6学区 (H20) → 12学区 (H24)		
			特色選抜	6学区 (H20) → 16学区 (H24)		

重点目標	施策	主要施策の状況	施策の成果等を示すデータ等（プランに掲げる「具体的な目標」など）			成果と課題及び計画期間中の状況変化等
	特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学校の整備 (H19～23)</li> <li>特別支援学校と高校との交流及び共同学習 (H19～)</li> <li>特別支援教育支援員活用推進事業 (H19～)</li> <li>特別支援教育コーディネーター研修 (H17～)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国公立特別支援学校在籍者数</li> <li>○公立小・中学校特別支援学級在籍者数</li> <li>○校内外委員会の設置</li> <li>○特別支援教育コーディネーターの指名</li> </ul>	知的障害	2,998人 (H20) → 3,901人 (H24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育推進計画に基づく学校再編や体制整備が進展</li> <li>計画策定後の児童生徒数（特に知的）の急増対策が必要</li> <li>国のインクルーシブ教育システム構築の動向等を踏まえた、第二次計画の策定が必要</li> </ul>
② 「体験教育」をはじめ兵庫の特色ある教育の推進	兵庫型「体験教育」の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>トライやる・ウィーク等兵庫型「体験教育」の推進</li> <li>兵庫型「体験教育」の評価検証 (H22)</li> <li>高校生地域貢献事業-トライやる・ワーク-(H17～)</li> <li>高校生就業体験事業-インターンシップ推進プラン-(H17～)</li> </ul>	○トライやる・ウィークを通じて改めて保護者・大人への感謝の気持ちを持った		60.8% (H20) → 64.9% (H24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>兵庫型「体験教育」が教育効果の高い取組として定着</li> <li>生徒の希望に応じた受入先の開拓や日常生活につながる事後指導の充実等が必要</li> <li>高校生の地域貢献及びインターンシップは、体験した生徒には職業観、ボランティア精神が高まる一方、参加者が一部の生徒に留まっている状況</li> <li>ふるさとへの愛着心を育成するための体験活動の実施が必要</li> </ul>
			○トライやる・ウィークを通じて改めて社会のルールやマナーの大切さが分かった		71.6% (H20) → 74.8% (H24)	
			○高校生地域貢献活動を行った生徒 [H27:100%]		— → 86.7% (H24)	
			○インターンシップを実施した就職希望生徒 [H27:100%]		— → 53.4% (H24)	
			○今住んでいる地域の行事に参加している	小 中	57.1% (H20) → 60.3% (H24) 36.9% (H20) → 39.7% (H24)	
			○住んでいる地域に誇りや愛着を感じる人の割合（県民意識調査）		53.1% (H20) → 55.2% (H24)	
	防災教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等学校、EARTH等による東日本大震災の被災地支援 (H23～)</li> <li>防災教育新副読本「明日に生きる」の作成・活用 (H23～作成、H24～活用)</li> </ul>	○「防災教育副読本」の活用	小 中	97.7% (H20) → 99.0% (H24) 69.2% (H20) → 71.2% (H24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災の発災に伴い、本県児童生徒や教職員による被災地支援など、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた兵庫の防災教育の成果が発揮</li> <li>阪神・淡路大震災を経験していない児童生徒への防災教育や東南海・南海地震に備える防災教育、学校の防災体制の強化等が必要</li> </ul>
			○地域と連携した防災訓練の実施		90.7% (H20) → 92.2% (H24)	
			○災害対応マニュアルの毎年度の見直し	小 中 高	81.7% (H20) → 99.5% (H24) 71.7% (H20) → 98.3% (H24) 53.3% (H20) → 96.6% (H24)	
	「共生」の心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな人権課題に対応した人権教育研究 (H22～)</li> <li>人権教育資料「HUMAN RIGHTS」(H22)「ほほえみ」(H23、H24)の改訂</li> </ul>	○国民に特に関心のある人権問題			
<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども多文化共生サポーターの派遣 (H11～)</li> <li>帰国・外国人児童生徒受入促進事業 (H19～)</li> </ul>			○日本語指導が必要な外国人児童生徒数		702人 (H20) → 774人 (H24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども多文化共生サポーターの派遣等によるきめ細かな支援が進展</li> <li>日本語指導が必要な外国人児童生徒の増加や居住地が散在化しており市町等との連携による支援の充実が必要</li> </ul>
「心」を支えるシステムの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールカウンセラー配置 (H7～)</li> <li>小学校への配置拡充 (H20～)</li> <li>学校支援チームの配置 (H19～)</li> <li>高等学校問題解決サポートチームの設置 (H22～)</li> <li>教職員用「いじめ対応マニュアル」の改訂 (H25.3)</li> <li>ひょうごっ子悩み相談 (S62～)</li> <li>24時間いじめ相談 (H19.1～)</li> <li>ネットいじめ情報相談 (H20～)</li> <li>教育事務所「教育相談窓口」の設置 (H19～)</li> </ul>	○いじめ認知件数（1,000人当たり）	小 中 高	1.2人 (H20) → 1.2人 (H23) 5.1人 (H20) → 3.3人 (H23) 1.0人 (H20) → 1.0人 (H23)	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校率は全国平均を下回る状況を維持</li> <li>暴力行為は全国平均を上回るものの減少傾向</li> <li>いじめ問題が全国的に課題となり、本県でも事案が発生したことから (H24)、対策強化（未然防止、早期発見、早期対応）が必要</li> <li>今後、「いじめ防止対策推進法」に基づく総合的ないじめ防止対策の充実や、自殺予防教育・対策等が必要</li> </ul>	
		○認知したいじめを解消〔全国平均以上〕		73.1% (H20) → 78.4% (H23)		
		○不登校児童生徒数（100人当たり）	小 中 高	0.2人 (H20) → 0.3人 (H23) 2.8人 (H20) → 2.6人 (H23) 0.9人 (H20) → 0.8人 (H23)		
		○暴力行為の発生件数（1,000人当たり）	小 中 高	2.3件 (H20) → 1.8件 (H23) 18.2件 (H20) → 13.5件 (H23) 3.6件 (H20) → 3.0件 (H23)		
		○ひょうごっ子悩み(いじめ)相談件数		4,880件 (H20) → 5,267件 (H24)		

重点目標	施策	主要施策の状況	施策の成果等を示すデータ等（プランに掲げる「具体的な目標」など）			成果と課題及び計画期間中の状況変化等	
③ 学校 となつた 家庭 組の 地域 の 推進 が 一 体	家庭・地域の教育力の向上	・ひょうご学校支援地域本部事業(H20～)	○学校支援地域本部登録ボランティア 〔H23：60,000人〕		77,671人(H21) → 67,753人(H24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民による学校支援は、登下校時の見守り活動等にとどまり、ボランティア登録者数も減少していることから、<b>県民の一層の参画を促進</b>する必要</li> <li>・子育てを地域で支え合う雰囲気があると感じる割合は3割にとどまっており、<b>子育て施策のさらなる充実</b>が課題</li> <li>・小学校教育への円滑な接続を図るためにも、<b>就学前からの生活・学習習慣づくり</b>が必要</li> </ul>	
		・学校地域連携促進事業(H22～)	○子育てについて地域で支え合う雰囲気があると思う		29.6%(H20) → 30.7%(H24)		
		・ひょうご放課後プラン事業「子ども教室型」(H19～)	○地域に住んでいる子どもはのびのびと育っていると思う		55.5%(H20) → 61.7%(H24)		
			○子ども教室開設〔必要な全小学校区〕		154校区(H20) → 208校区(H24)		
			○オープンスクール参加者〔102,000人〕		97,152人(H20) → 98,229人(H24)		
④ の 推 進 し て 学 べ る 環 境 づ く り、 信 頼 さ れ る 学 校 づ く り	学校の組織力向上	・教職員の勤務時間の適正化の推進(H20～) (対策プラン(H21.3)、新対策プラン(H25.2))	○ノー残業デーの実施状況	小	89.1%(H23) → 95.8%(H24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価の実施・公表など、開かれた学校づくりが進展</li> <li>・教職員が子どもと向き合う時間を確保できるよう、定時退勤日等の実施や全ての学校の業務改善等、<b>勤務時間の適正化</b>に向けた総合的な対策が必要</li> </ul>	
		・学校管理職・教育行政職特別研修(H16～)		中	90.6%(H23) → 97.4%(H24)		
		・主幹教諭研修(H19～)		県立	54.4%(H23) → 74.2%(H24)		
			○学校評価の公表率		93.1%(H20) → 100%(H24)		
			○主幹教諭の配置校		70.7%(H20) → 92.9%(H24)		
	教職員の資質能力の向上	・教員採用試験の工夫・改善	○教員採用候補者選考試験受験者数			5,812人(H20) → 7,499人(H24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員採用試験の工夫・改善により倍率は6.0倍を確保</li> <li>・ベテラン教員の大量退職や国の教員免許制度の在り方検討等を踏まえた<b>若手教員の資質向上</b>、教職員のメンタルヘルス対策の充実等が必要</li> <li>・体罰が全国的な課題となっており、教職員の意識改革が急務</li> </ul>
		・教職員人事評価・育成システムの推進(H18～)	○教員の年齢別構成（50歳以上の割合）	小	41.9%(H23)		
		・教職員研究活性化支援事業(H15～)		中	39.0%(H23)		
	学習環境の整備	・県立学校の耐震化の促進(H16～)	○県立学校施設の耐震化率	県立	61.0%(H20) → 83.6%(H24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>耐震化率95%（H27まで）</b>を目標に、計画的に耐震化を推進</li> <li>・非構造部材も含めた耐震点検・対策が必要</li> </ul>	
		・市町立学校の耐震化促進に向けた指導・助言	〔H27年度末までに95%〕	小・中	67.8%(H20) → 91.0%(H24)		
・地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業(H17～)		○登下校時の見守り・パトロールや街頭整備等安全・安心を守る取組が行われていると思う		71.2%(H20) → 70.4%(H24)			
		○スクールガード登録者数		142,205人(H20) → 138,361人(H24)			
⑤ の 推 進 し て 学 べ る 環 境 づ く り	社会教育の振興・生涯学習	・美術館元気づくり事業(アウトリーチ、子どもの来館促進等)(H20～)	○県立美術館入館者(利用者)数 〔年間600,000人〕		500,928人(H20) → 655,686人(H24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館、人と自然の博物館は特別展等による入館者数の変動があるものの安定した入館者数を維持</li> <li>・歴史博物館は姫路城改修等の影響により入館者が減少</li> <li>・入館者の満足度は各館とも概ね9割と高評価</li> <li>・<b>県民ニーズの高い展示会の開催、アウトリーチ活動や地域との連携による来館促進</b>が必要</li> </ul>	
		・博物館ネットワーク事業(H23～)	○歴史博物館入館者(利用者)数 〔年間220,000人〕		225,650人(H20) → 77,474人(H24)		
		・丹波恐竜化石発掘事業(H18～)恐竜ラボ(H20.4～)	○人と自然の博物館(利用者)数 〔年間500,000人〕		555,782人(H20) → 895,748人(H24)		
		・ひとはく号の導入によるアウトリーチ(H24～)	○県立美術館・博物館の満足度（4館平均）		89.1%(H21) → 89.6%(H24)		
	スポーツの振興	・「スポーツクラブ21ひょうご」の推進(H12～)	○成人の週1回以上スポーツ実施率〔60%〕		43.8%(H20) → 59.4%(H24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人の週1回以上スポーツ実施率が着実に向上</li> <li>・神戸マラソン(H23～)など県民スポーツの機会が充実</li> <li>・「<b>県スポーツ推進計画(H24.12)</b>」に基づく<b>県民スポーツの一層の充実</b>や県民の健康増進が必要</li> </ul>	
・神戸マラソンの開催(H23～)		○スポーツクラブや同好会への加入状況〔33%〕		— → 20.8%(H22)			